

<様式3>

事業計画書要旨(群馬県立金山総合公園)

1	申請者名	山梅・ケービックスグループ				
2	管理運営方針 (公益性) ※SDGsを考慮のこと	施設の老朽化や未整備森林の活用といった課題に対し、SDGsの理念を取り込んだ持続可能な公園づくりを目指します。当公園の設置目的である「健康な体・豊かな心・考える力」の育成を達成するため、これからの5年間、以下の基本方針を推進します。 ●「つなぐ」多様性と協働：自然と人と地域を繋ぎ、学校や企業と連携して「誰もが主役になれるオープンな場」を創出します。 ●「まもる」安全・環境：UDや防犯・防災機能を強化して安全を確保し、豊かな自然環境を次世代へ引き継ぎます。 ●「はぐくむ」心身育成：スポーツや自然体験を通じ、利用するすべての人の「健康な体・豊かな心・考える力」を育みます。 また、これらの質の高いサービスを持続するため、高齢者や女性の活躍推進、時間帯勤務の導入等により、多様なスタッフが働きがいを得られるエイジフレンドリーな組織基盤を構築します。				
3	年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
収 支 計 書	委託事業(単位：千円)					
	総収入	191,113	189,791	191,419	193,896	195,996
	内					
	指定管理料	147,081	145,639	144,197	142,034	142,034
	訳					
	その他	44,032	44,152	47,222	51,862	53,962
	総支出	191,113	189,791	191,419	193,896	195,996
	自主事業(単位：千円)					
	総収入	12,380	12,380	12,820	13,402	13,620
	総支出	12,380	12,380	12,820	13,402	13,620
4	サービス等を向上させるための取り組み	「生き物や豊かな自然環境がすぐそばにある」という当公園ならではの魅力を活かし、「新たな利活用」と「ニーズの的確な把握」を柱としたサービス向上を推進します。 ●平日の利用促進・滞在延長：休日の混雑緩和に向け、森の恵みに触れる平日のクラフト体験の強化や、自然の中での夏休み学習スペース開放により新たな来園機会を創出します。 ●自主財源の確保と需要開拓：夜の自然を体感するナイトハイク等の夜間イベントやドッグラン、手ぶらBBQの導入など環境を活かした企画展開と一部有料化により安定した運営基盤を築きます。				

	●公園の強みと地域連携：本物の自然をフィールドにするからこそ深い学びが得られる「金山バイオダイバーシティ（子ども市民科学者）」の実施や、「かくれんぼの丘」の体験型空間への再整備を進めます。
5 広報広聴への取り組み	利用者の声を聴く「広聴」と魅力を届ける「広報」を両輪とする、双方向のコミュニケーションを基本方針とします。 ●広聴：毎月のアンケート（シニア向け紙媒体とファミリー向けWebを併用）や運営協議会を通じ、多様な層の意見を漏れなく収集し、運営に反映させます。 ●広報：SNSによるタイムリーな発信（フォロワー増を目標）や、寄せられた意見への対応状況をHP等で公開し、透明性の高い運営を行います。また、他商業施設等でのキャンペーンやインフルエンサーとのコラボで新規層を開拓します。
6 県民との協働	ボランティアコーディネーターを配置し、やりがいを持って継続できる受け入れ体制を整備します。また、シニア人材と子どもが互いに教え合う制度の創設や、学校・企業と連携した循環型教育サイクルを構築し、公園を地域交流と学びの実践拠点とします。
7 組織体制について	平成18年からの指定管理実績を基盤に、各分野の専門企業が結集し「安全第一」の強固な組織体制を構築します。代表会社による「安全衛生委員会」を中心にグループ全体で安全管理を徹底するとともに、「金山総合公園運営協議会」において地域住民や有識者等の第三者意見を積極的に反映させ、透明性と客観性を担保した確実な公園管理を遂行いたします。
8 維持管理の取り組み	開園後30年以上を経過した施設の老朽化に対応し、不具合を未然に防ぐ「予防保全」を徹底します。また、樹木の適切な育成管理や、地元福祉施設・シルバー人材と協働した日常清掃により、快適で美しい公園環境を維持します。
9 組織運営について	各専任グループを配置し、指揮命令系統と責任を明確化します。部署間の縦割りを防ぐための「他部署研修」を導入し、公園全体の業務理解と連携を強化します。また、職員からの紹介によるリファラル採用を推進し、質の高いサービスを安定的かつ継続的に提供できる組織を運営します。
10 人材育成について	「人」を重視し、接遇・安全・救命・災害対応等の実践的な定期研修を継続して実施します。さらに、近年激甚化する自然災害への対応力強化を目的とした「防災士」資格の取得や、SNS活用に伴う情報セキュリティ関連資格（個人情報保護士等）の取得を積極

	的に推進し、現代特有のリスクに柔軟に対応できるプロフェッショナルな人材を育成します。
11 知識・経験について	管理運営全般と緑地管理は、当公園で長年の指定管理実績を持ち、樹木医や造園施工管理技士を擁する「山梅」が担います。建物・施設管理は大規模施設の管理実績が豊富な「ケービックス」が担当し、遊具の維持・安全管理は「公園施設製品安全管理士」を有する遊具専門企業「東洋スポーツ」が実施します。各分野の最高水準の専門知識を結集し、安全・安心な環境を維持します。
12 情報管理に対する取り組み	個人情報や機密情報を厳格に「守る」姿勢と、運営状況を「公開する」姿勢の両輪で、透明性の高い組織運営を推進します。法令遵守のもと、スタッフへの継続研修や機密保持誓約書の締結（グループ間NDA含む）を徹底し、肖像権にも配慮します。同時に、利用案内や災害時の緊急情報、要望への対応結果等をHPやSNS、園内掲示板で発信し、利用者との強い信頼関係を築きます。
13 安全管理への取り組み ・事故、災害等緊急時の連絡動員体制	来園者の「人命と安全の確保」を最優先とし、リスク防止の「日常の備え」と迅速な「緊急時対応」の両面から包括的な安全管理体制を構築します。 ●日常の予防・インフラ整備：AEDや救急品の適正配置・点検。人感センサー照明や災害用FREE Wi-Fiの整備も進めます。 ●獣害対策・外来種防除：自然林の下刈り（緩衝地帯の維持）や防護柵点検、カメラトラップの活用で大型哺乳類対策を実施し、クビアカツヤカミキリ等の防除も進めます。 ●緊急時対応・訓練：緊急連絡体制と対応マニュアルを徹底します。通常訓練に加え、児童会館との合同訓練や来園者参加型の「総合防災訓練」を実施し、対応力と地域の防災意識を高めます。
14 環境管理に対する取り組み	環境負荷の低減と持続可能な地域社会の形成を目指します。園内で発生する剪定枝や伐採木を活用するため、新たに「炭焼き小屋」を整備し、オリジナル炭を製造・販売する循環型運営を推進します。他にも来園者が楽しみながら参加できる環境保全活動を展開します。
15 公園施設を安全に利用するための取り組み	来園者が安心して過ごせるよう点検体制を充実させ、有料遊具の特性に応じた点検項目を設定します。さらに、専門技術者による「安全パトロール」や外部有識者との「合同点検」、管理責任者による「手順書に基づく業務監査」など、客観的かつ多角的なチェック機能を導入し、点検の形骸化防止と品質向上を図ります。

16 樹木点検や倒木及び枯損木に対応する安全管理の取り組み	樹林の「恩恵」を活かしつつ、倒木・落枝等から来園者を守るため「予防」「利用制限」「早期対応」で安全管理を推進します。 ●予防措置：ナラ枯れ対策の「森の若返り」や、倒木・落枝を防ぐための強剪定・枝透かし剪定を実施します。 ●利用制限：雨雲レーダー等を監視し、悪天候予測時は躊躇なく立ち入り禁止や閉園を行い、人的被害を防ぎます。 ●早期対応：気象被害後は直ちに重点点検と危険木の早期除去を実施。樹木医の診断に基づくリスク評価で安全な森林管理を実現します。
17 駐車場不足に解消に向けた取り組み	繁忙期の駐車場不足に対し、ハード・ソフト両面からアプローチします。地域住民のご協力のもと臨時駐車場を拡大し、路上駐車等の地域トラブルを防止します。また、アンケート調査に基づき、公共交通の活用による来園方法も同時に進めていきます。
18 イベント開催や各施設を活用する取り組み	公園の規制を柔軟に見直し、地域の拠点となる賑わいと体験価値を創出します。ペット同伴のイベント等を実施し、得られた自主事業収入を環境維持へ還元します。また、自然環境と防災拠点の機能を融合させたこども向け防災イベントを開催し、実践的なリスクマネジメントを学ぶ場を提供します。
19 地域住民や企業と連携した園内修景の向上策について	「地域全体で公園を育てる」考えのもと、民間力の活用と地域参画による景観整備を推進します。老朽看板をアートフレームとして再生する「ぐんまこどもの国美術館」プロジェクトを協働で進め、新たなフォトスポットを創出します。
20 併設の「ぐんまこどもの国児童会館」と協力した取り組み	管理区分の垣根を越え、両施設の強みを活かした利用促進とサービス向上を図ります。団体予約窓口の一本化や、スタッフの「交換留学制度」による運営ノウハウの共有を推進します。また、児童会館の臨時休館中は公園がその機能を補完し、リニューアルオープン時には双方の強みを掛け合わせた周遊型連動イベントを実施して、施設全体の一体的な賑わいを創出します。
21 その他提案事項	群馬県との協議を重ねていく前提で、安定的な財源確保策を提案します。物価高騰の中で公園を持続的に管理・運営し、得られた財源を施設へ還元することで満足度と利便性の向上を図ります。

- 注 1 公表時は、申請者名欄は団体種別のみ表示します。
- 2 A4判3～4枚程度で事業計画書の該当項目を要約すること。
- 3 自主事業を行う場合は、収支計画書欄に自主事業を合算した数値を記載すること。